

## 第2章 集計の概要

## 1. 集計の対象

### (1) 罹患日の期間

2020年1月1日から2020年12月31日まで

### (2) 調査の期間

届出票受領期間：原則2021年1月1日から2021年12月31日まで

遡り調査期間：2022年9月1日から2022年11月18日まで

### (3) 集計日

2024年6月21日

### (4) 集計対象となるがん

第1章 3. 『届出対象となるがん』と同一である。

### (5) 精度指標(上皮内がんを除く)

MI比：0.38 DCI割合：3.52% DCO割合：2.49% MV比：87.46% HV比：84.79%

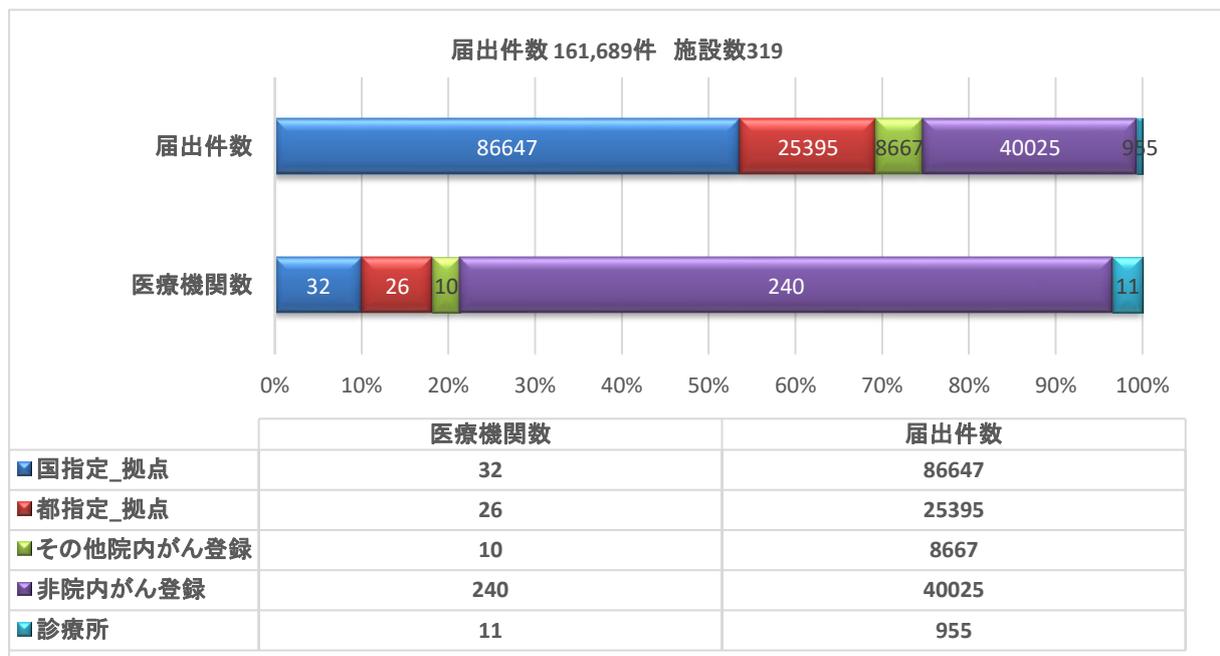
## 2. データ収集状況

### (1) 届出票

受領期間の届出票数は、総計161,689件・施設数319であった（重複、対象外を含む。）

参考として過去の届け出漏れを除いた2020年のみの診断数は、157,877件であった。

図2-1 届出票医療機関別件数



## (2) 死亡票

全国がん登録事業では、死亡票は法定業務として国が一括して取り扱う。

## (3) 遡り調査票

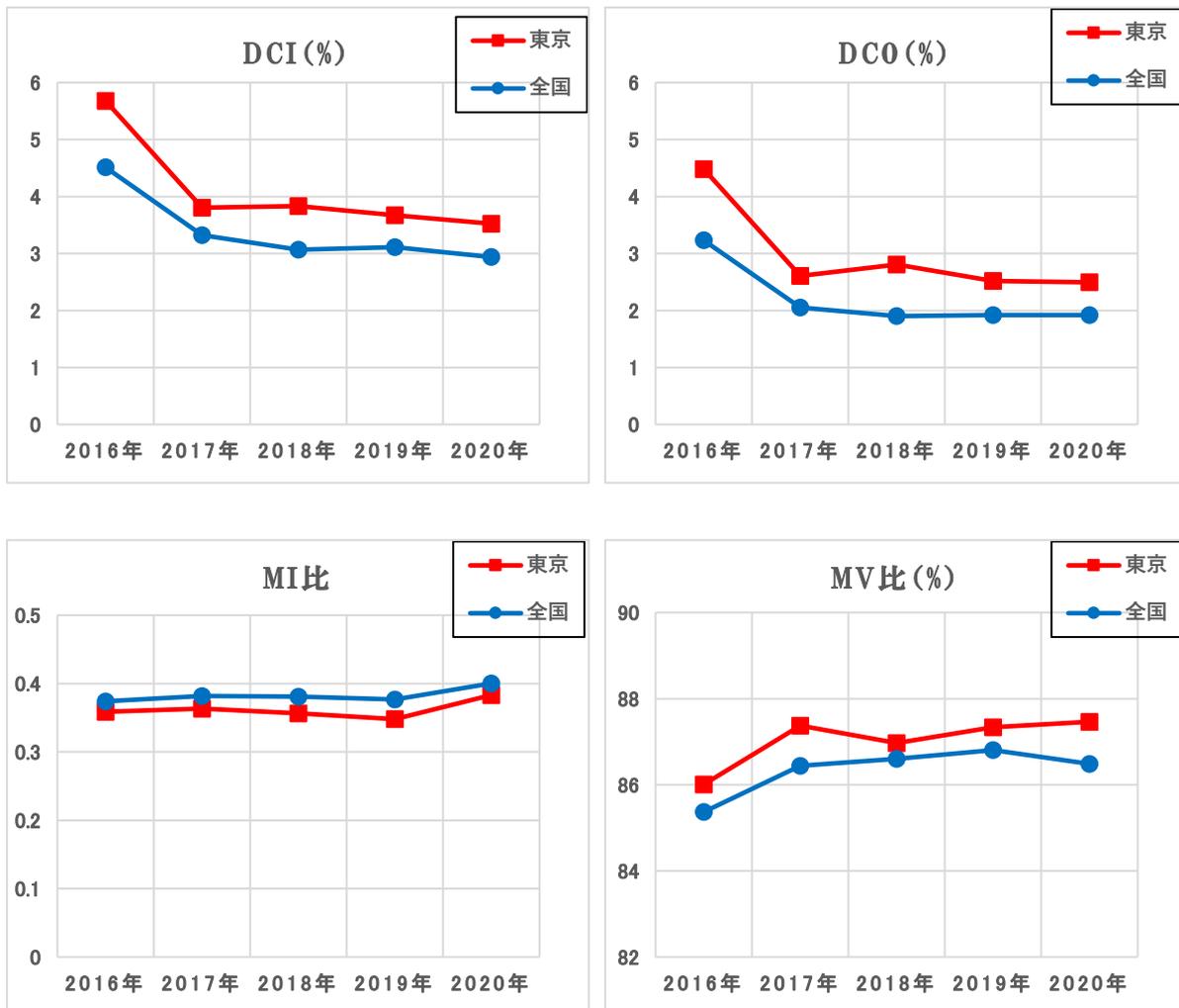
2020年(死亡)遡り調査対象症例は、2,423件(424病院)であった。遡り調査に対する回答は2,036件(全遡り調査に対する回答率84.0%)、357病院(同84.2%)であった。

## (4) がん登録の精度

### ①がん登録精度指標の改善状況

2012年に地域がん登録として始まった東京都におけるがん登録の精度指標は、全国レベルと歩調を合わせる形で漸次改善している(図2-2)。

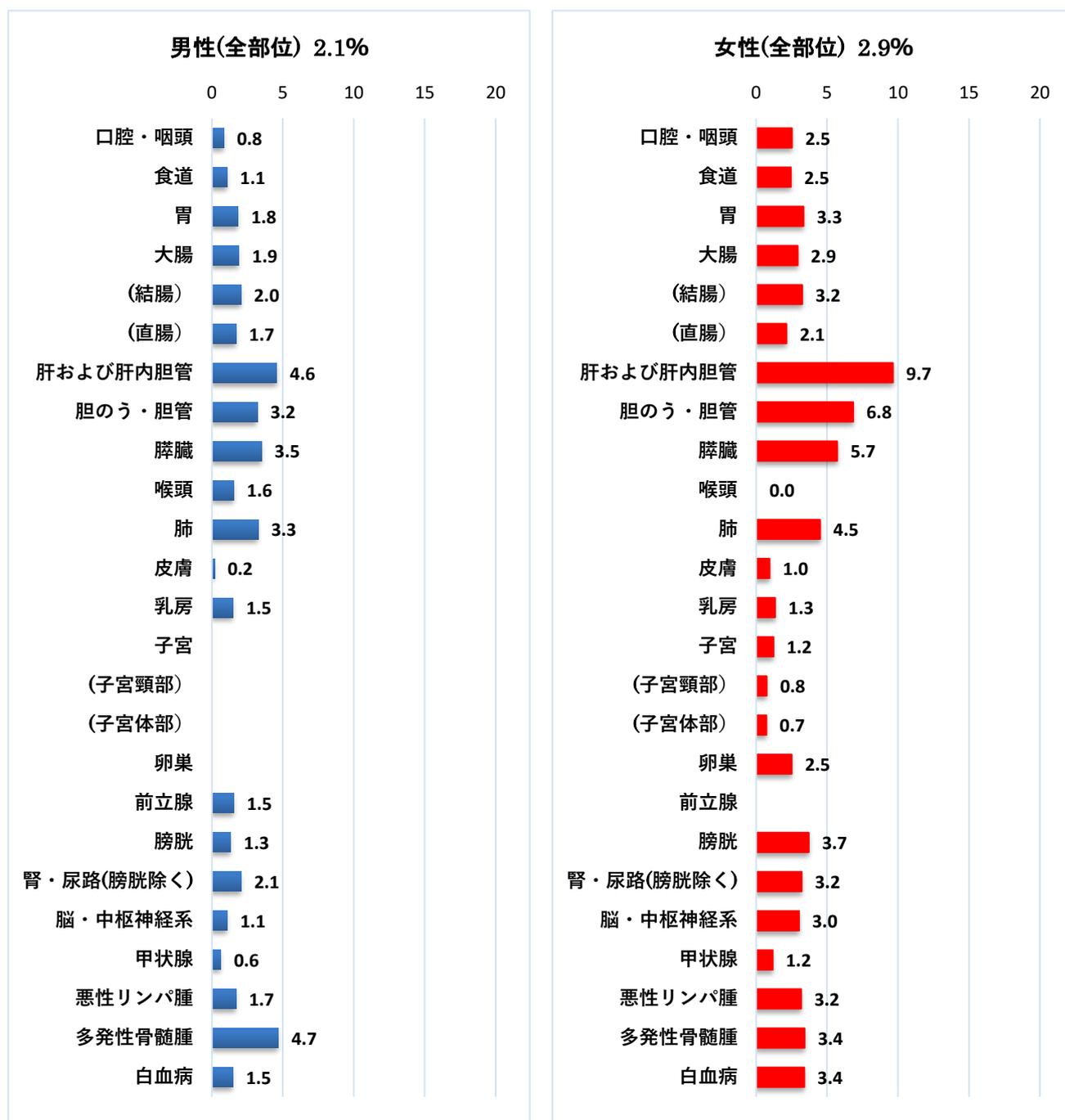
図2-2 がん登録の精度指標の推移(診断年2016から2020)



## ②部位別・性別DCOの違い（表3-8-A/B）

DCOが低いのは、男性では皮膚、甲状腺、口腔・咽頭などであり、女性では喉頭、子宮、皮膚などである。逆にDCOが高いのは、男性では、多発性骨髄腫、肝および肝内胆管、膵臓であり、女性では肝および肝内胆管、胆のう・胆管、膵臓である。（図2-3）。

図2-3 2020年部位別・性別DCO（上皮内がんを除く）単位%

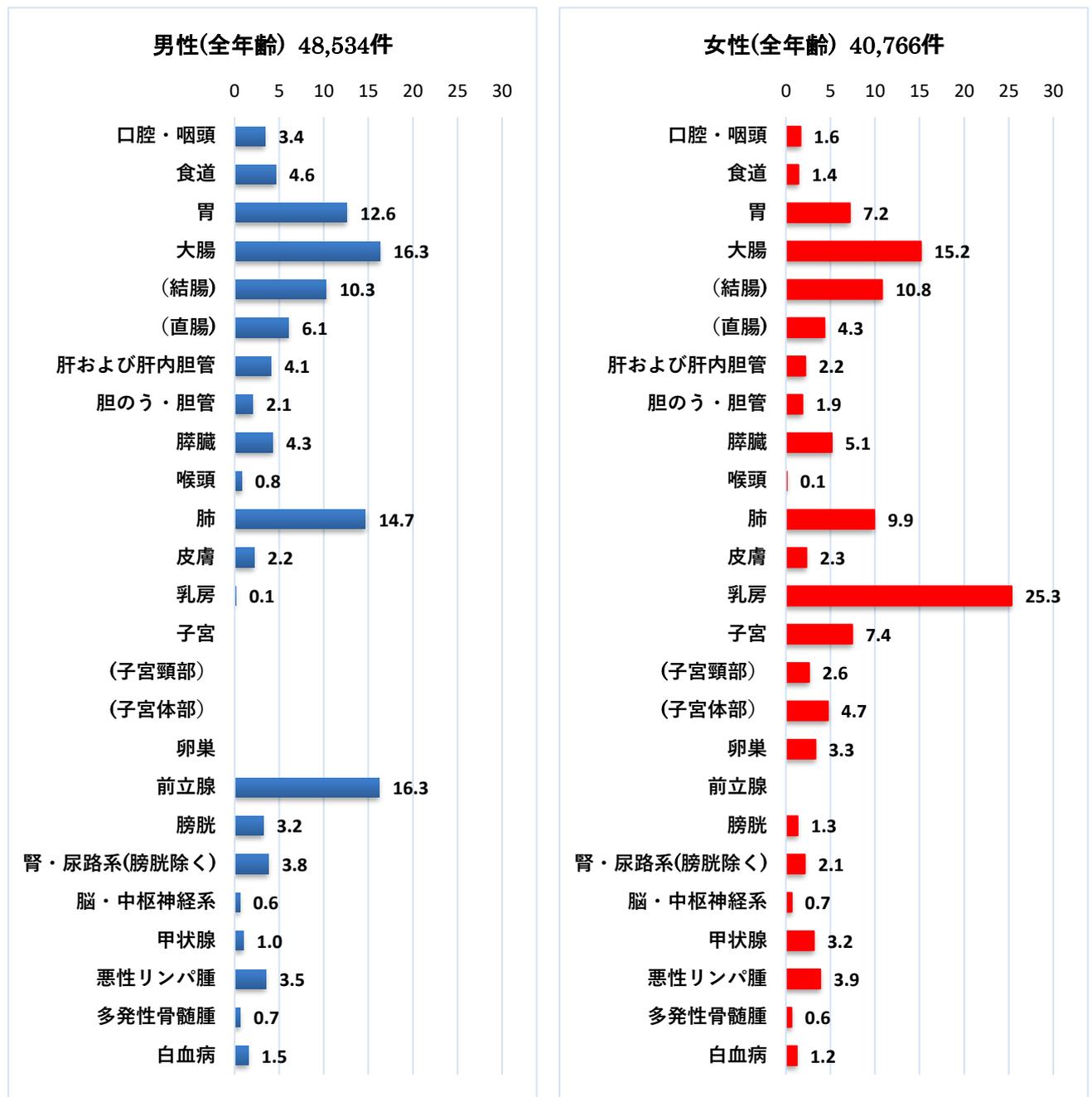


### 3. がん罹患の概要

#### (1) 部位別・性別罹患数（表3-1-A/B）

届出票と死亡票の情報を集約したがん罹患数は、上皮内がんを除いた場合、男性48,534件、女性40,766件で、男女計で89,300件であった。上皮内がんを含めた場合、男性52,939件、女性46,898件で男女計99,837件であった。上皮内がんを除いた男性の最も多い罹患部位は、大腸（16.34%）、前立腺（16.25%）であり、肺（14.7%）、胃（12.6%）と続く。女性の最も多い罹患部位は、乳房（25.3%）であり、次いで、大腸（15.2%）、肺（9.9%）、子宮（7.4%）、胃（7.2%）と続く（図2-4）。

図2-4 2020年部位別・性別罹患件数の割合（上皮内がんを除く）単位%



**(2) 年齢別がん罹患（表 3-2-A/B、3-3-A/B）**

上皮内がんを除く年齢別の内訳は、65歳以上が男性77.2%、女性62.9%を占めている。一方、40～64歳は、男性が20.9%であるのに対して、女性は32.4%となっている（図2-5）。

上皮内がんを除く性別内訳は、男性は女性より7,768件多いが、生産年齢人口の対象となる15～64歳に限ると女性は男性よりで4,096件多い。これは、この時期に女性の乳房と子宮に発生するがんが多いためである（図2-7）。

年齢階級別罹患率を見ると、男女とも年齢とともに罹患率は上昇するが、特に50歳を超えると上昇する。（図2-7）。

**図 2-5 2020 年がん罹患年齢群別内訳(上皮内がんを除く)**

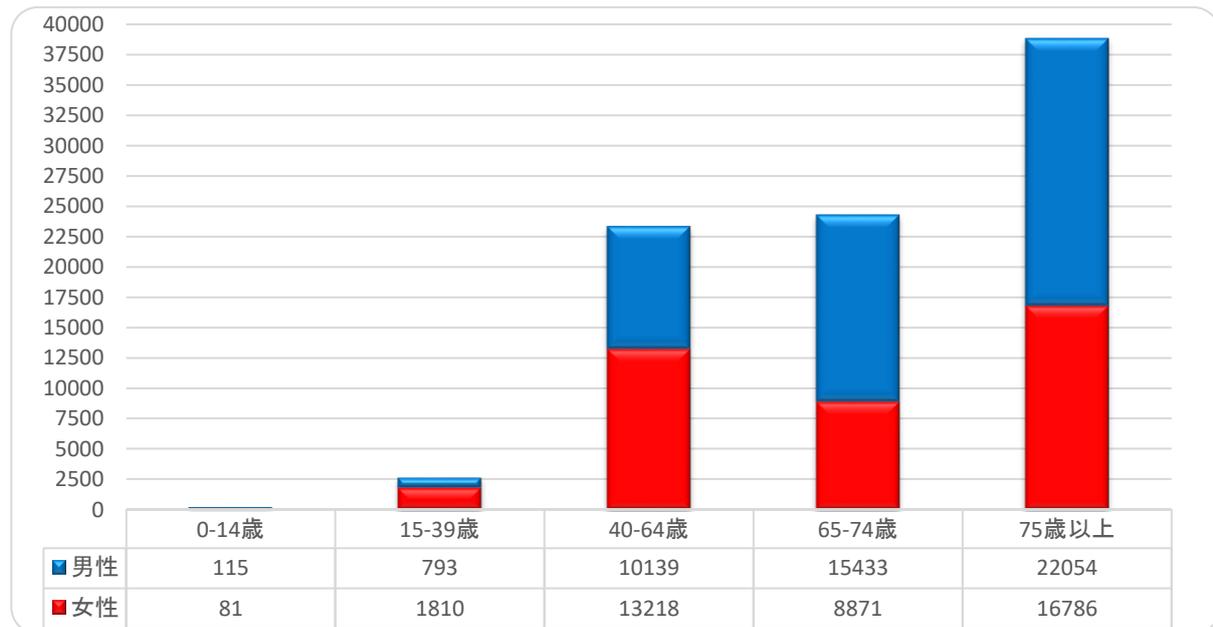
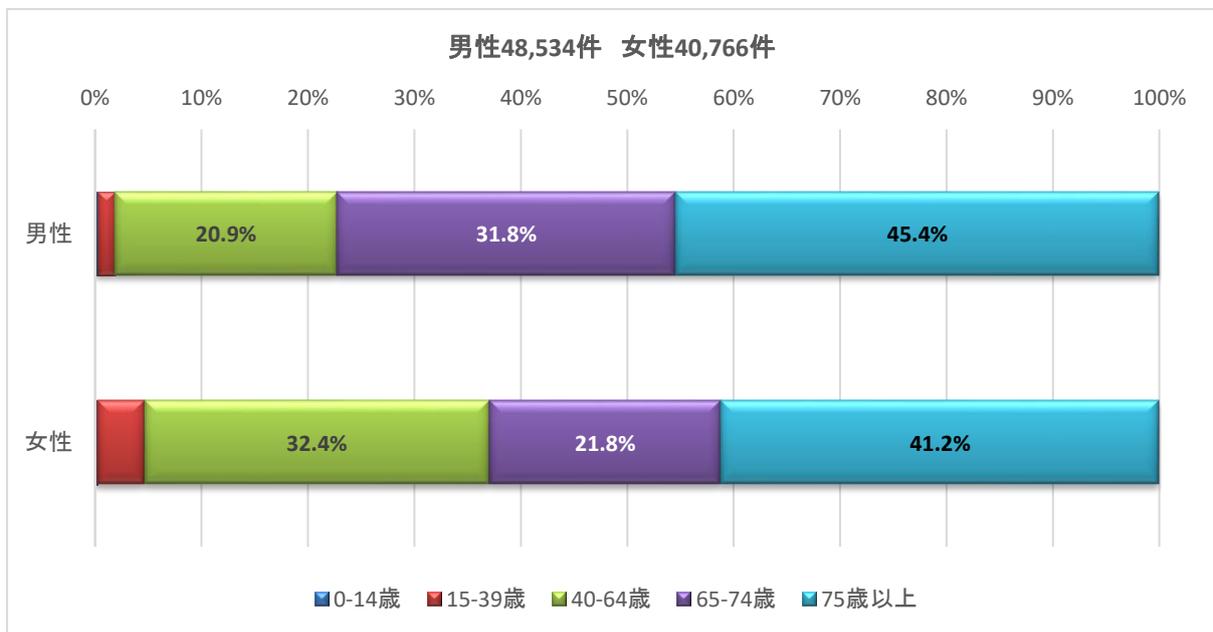


図2-6-1 2020年がん罹患年齢群別部位別内訳（%）上皮内がんを除く

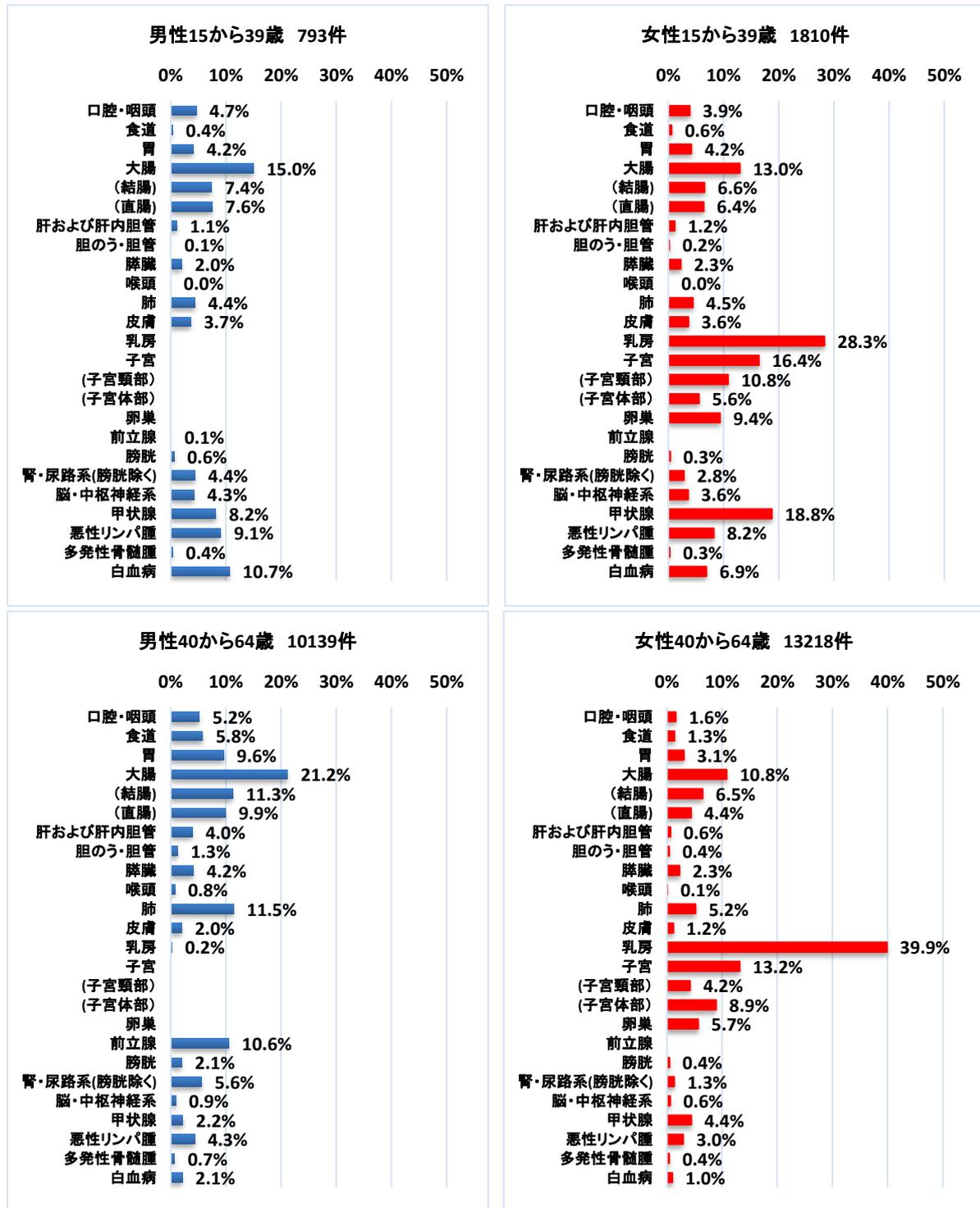


図2-6-2 2020年がん罹患年齢群別部位別内訳（%）上皮内がんを除く

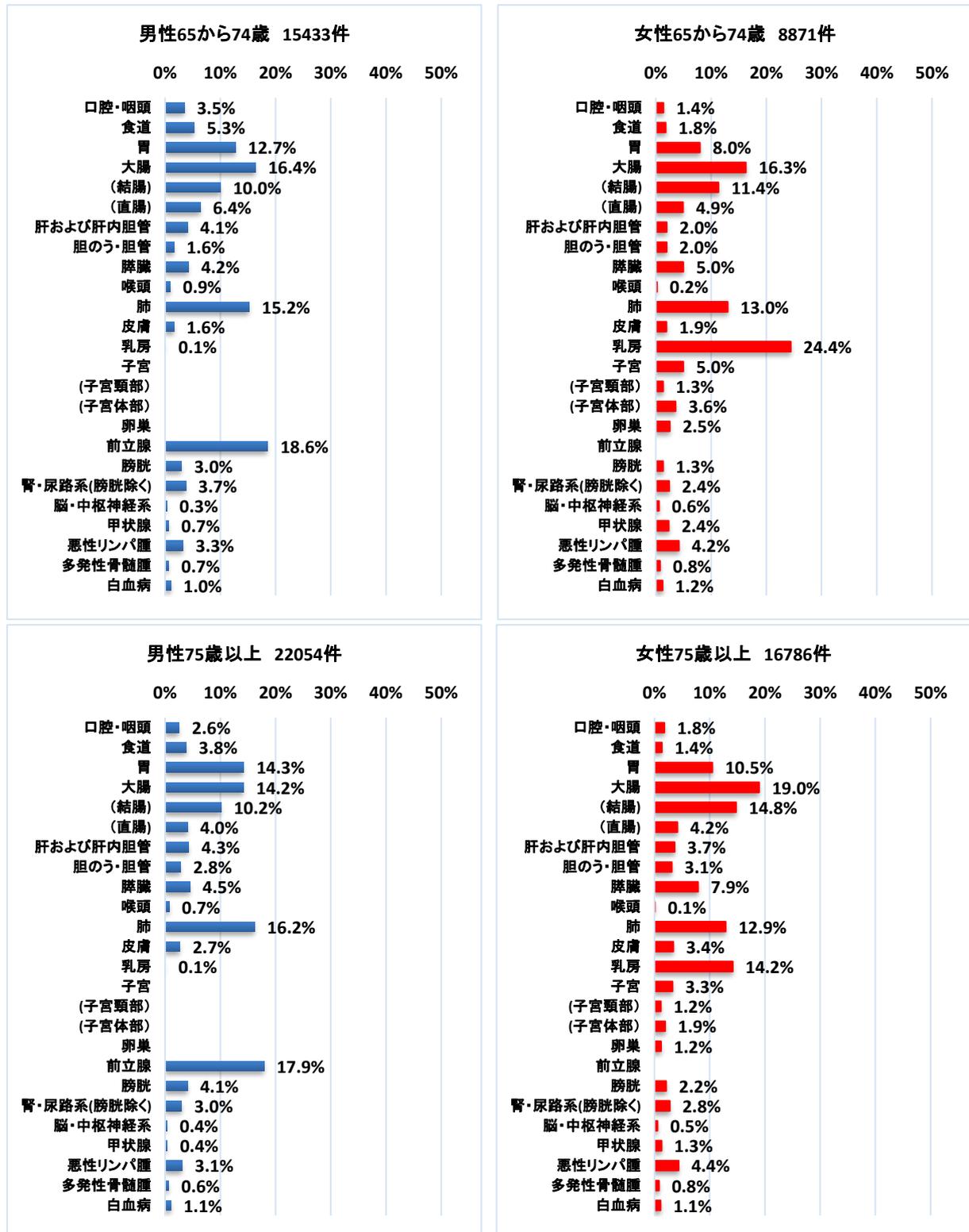




図2-7-2 2020年部位別年齢階級別罹患率：人口10万対

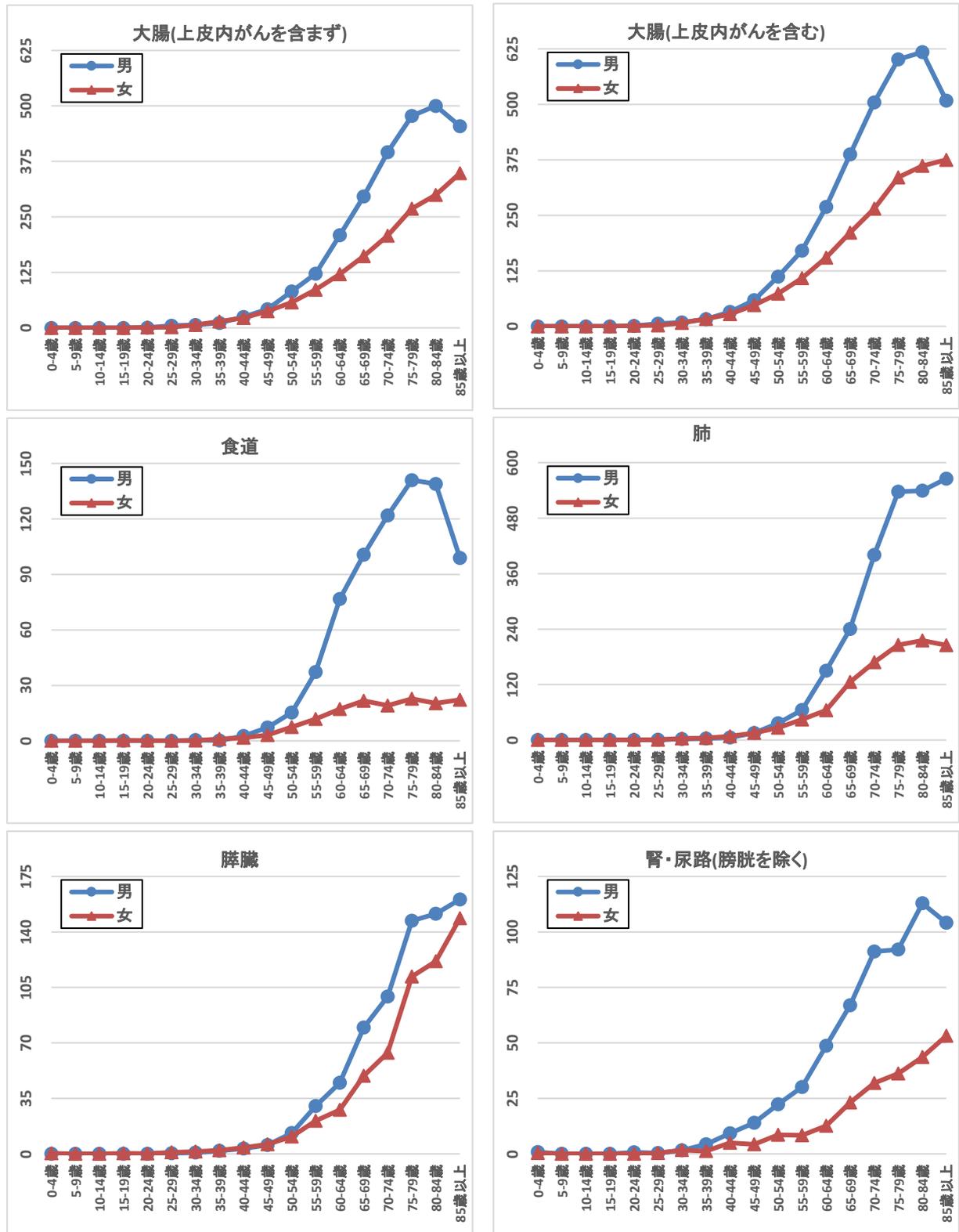
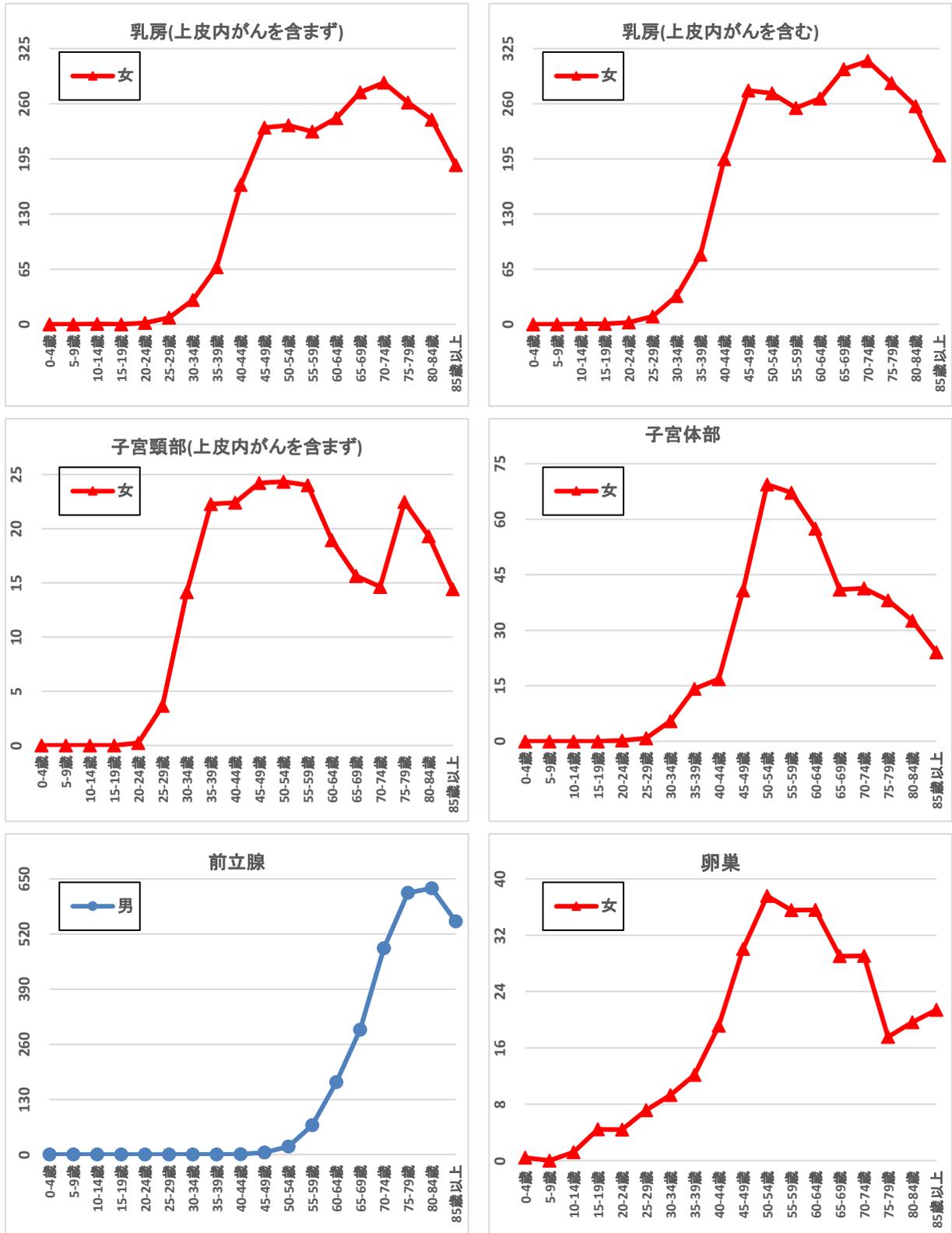


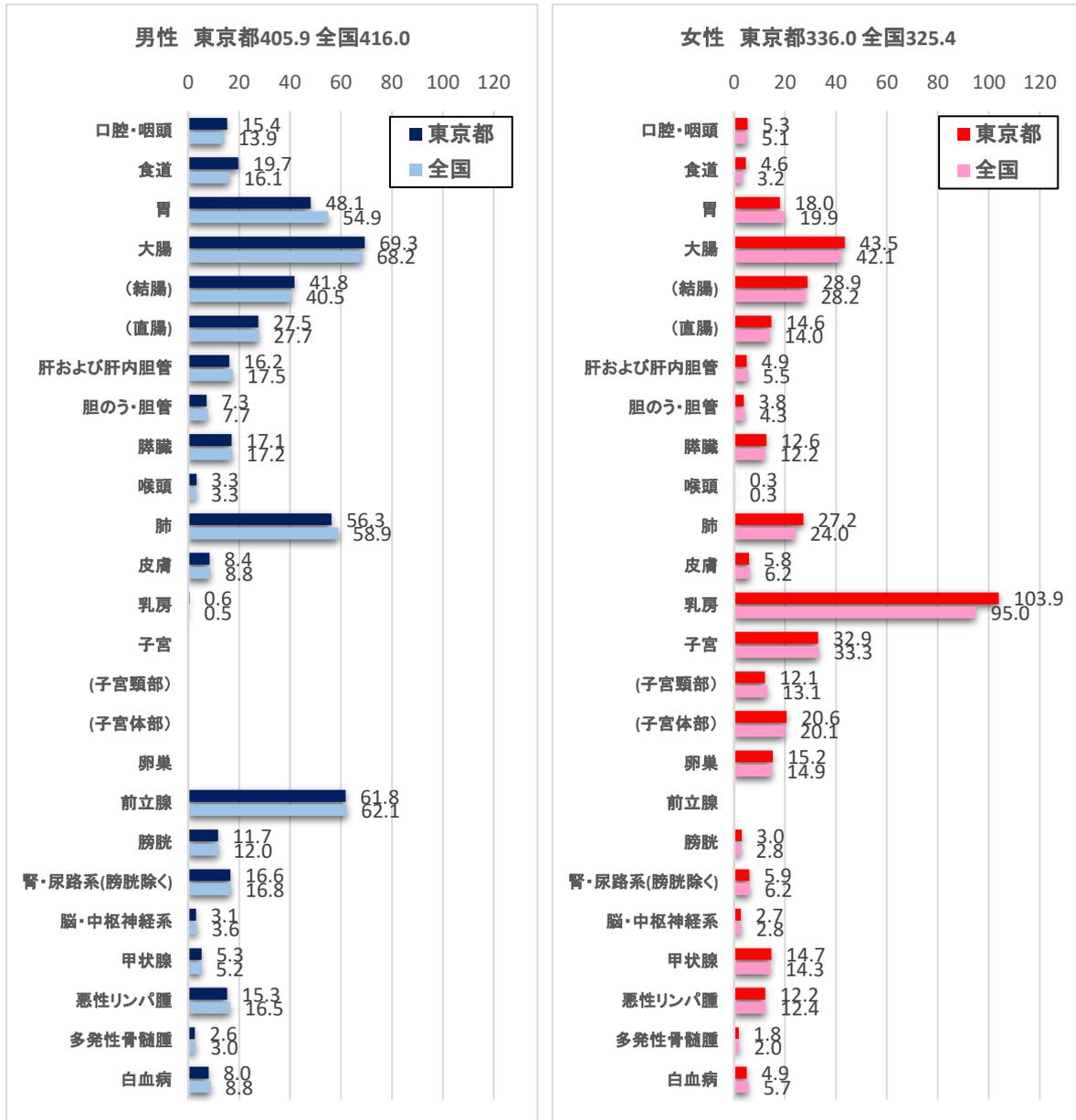
図2-7-3 2020年部位別年齢階級別罹患率：人口10万対



### (3) 年齢調整罹患率（2020年）（表3-1-A）

東京都の全部位の年齢調整罹患率（上皮内がんを除く、昭和60年日本人口モデルに基づく）は、人口10万人当たり、男性405.9、女性336.0である。全国での値は、男性416.0、女性325.4で、女性は東京都の方が高い。部位別では、男女ともに全国と比して概ね同様に高い傾向があるが、男性では、胃は全国より低く、女性では乳房は全国より高い（図2-8）。

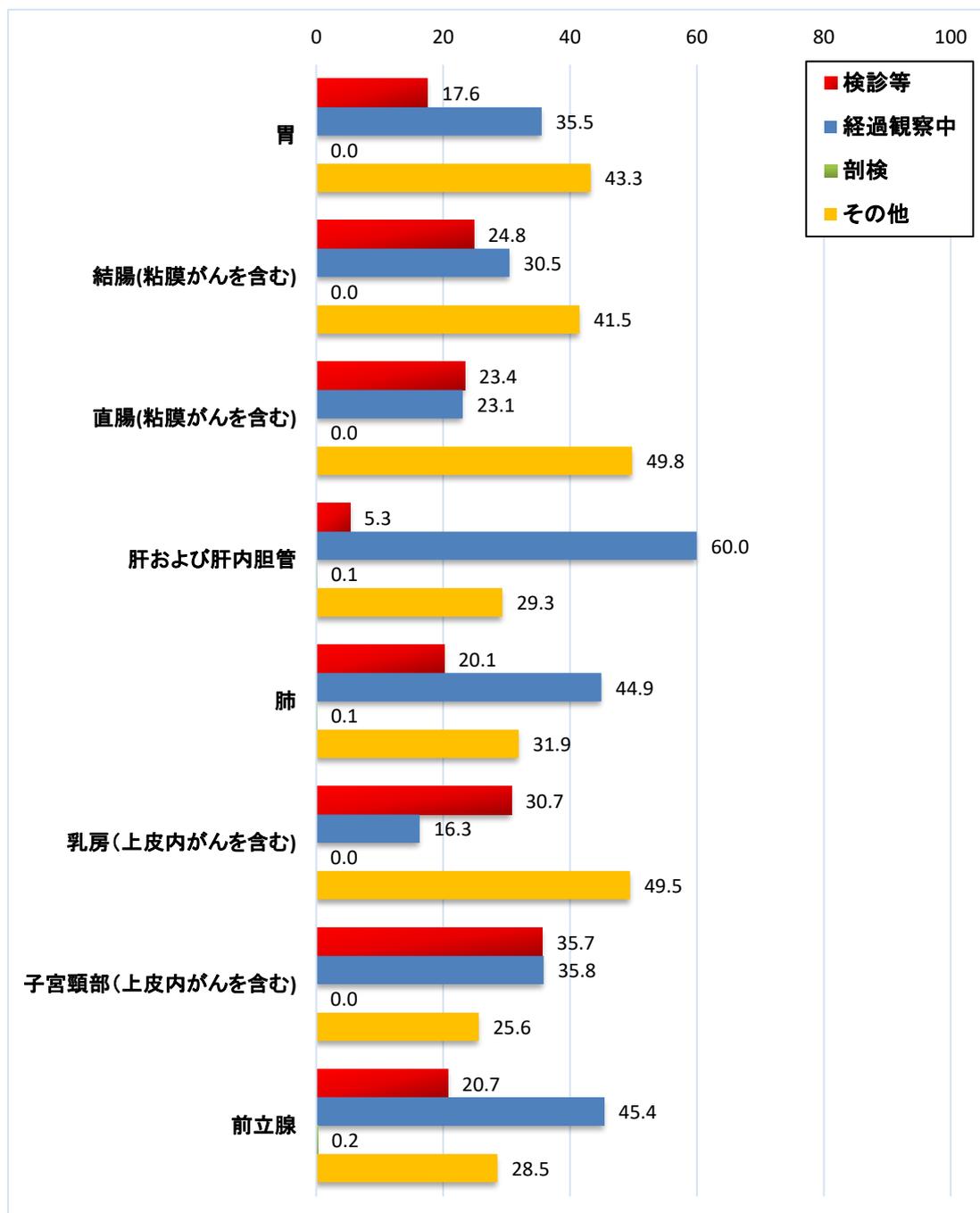
図2-8 2020年部位別がん年齢調整罹患率：人口10万対（全国推計値との比較）



#### (4) 発見経緯（表3-4-A/B）

検診等（がん検診、健康診断、人間ドック等）では、子宮頸部、次いで乳房、他疾患経過観察中では、肝および肝内胆管、次いで前立腺、肺が発見される割合が高い（図2-9）。

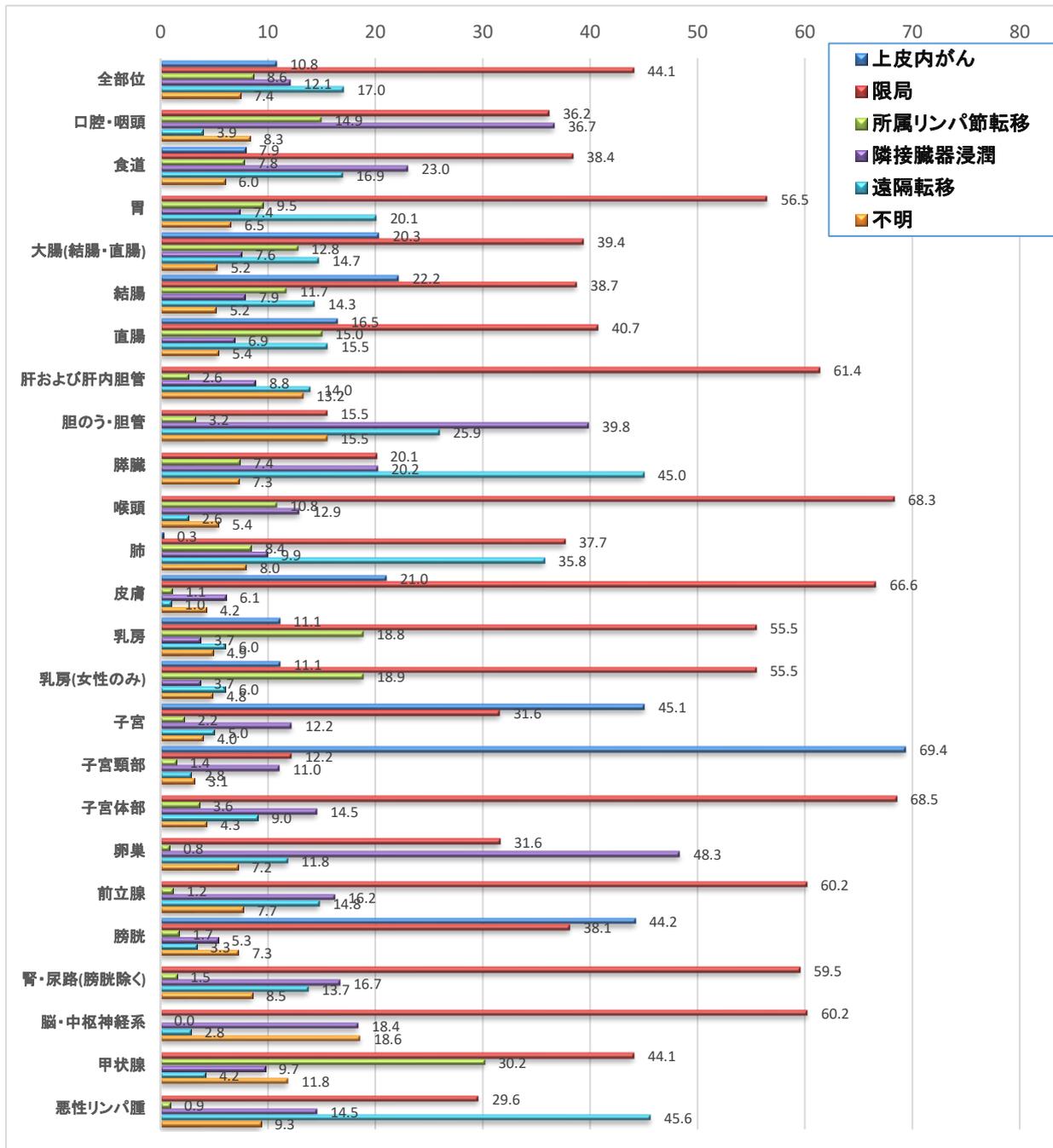
図2-9 2020年部位別発見経緯割合（%）（DCO症例を除く）



(5) 病期 (表3-5-1-A/B)

脳・中枢神経系、甲状腺、悪性リンパ腫以外で、所属リンパ節転移以上の進行割合の高い部位は、膵臓、胆のう・胆管、卵巣、肺である。隣接臓器浸潤の割合の高い部位は、卵巣、胆のう・胆管、口腔・咽頭、遠隔転移の割合の高い部位は、膵臓、肺である (図2-10)。

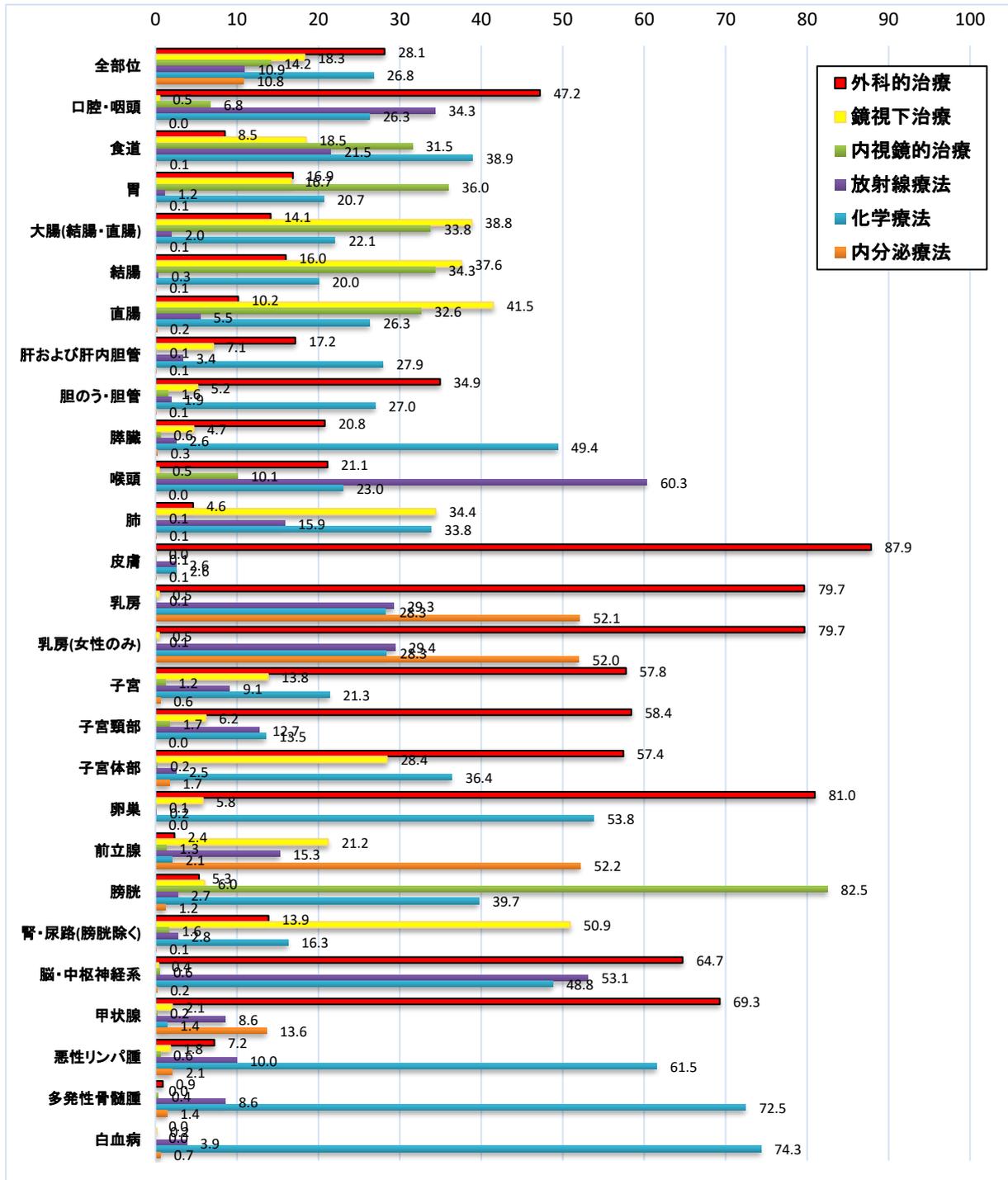
図2-10 2020年部位別発見時病期割合 (%) (DCO症例を除く)



(6) 初回治療内容（表3-6-A/B）

造血器腫瘍（悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病）以外で薬物治療（化学療法＋内分泌療法）の割合が高いのは、乳房、前立腺、卵巣、膵臓、脳・中枢神経系である。放射線治療の割合が高いのは、喉頭、脳・中枢神経系、口腔・咽頭、乳房、食道である（図2-11）。

図2-11 2020年初回治療内容（上皮内がんを含む）（%）（DCO症例を除く）



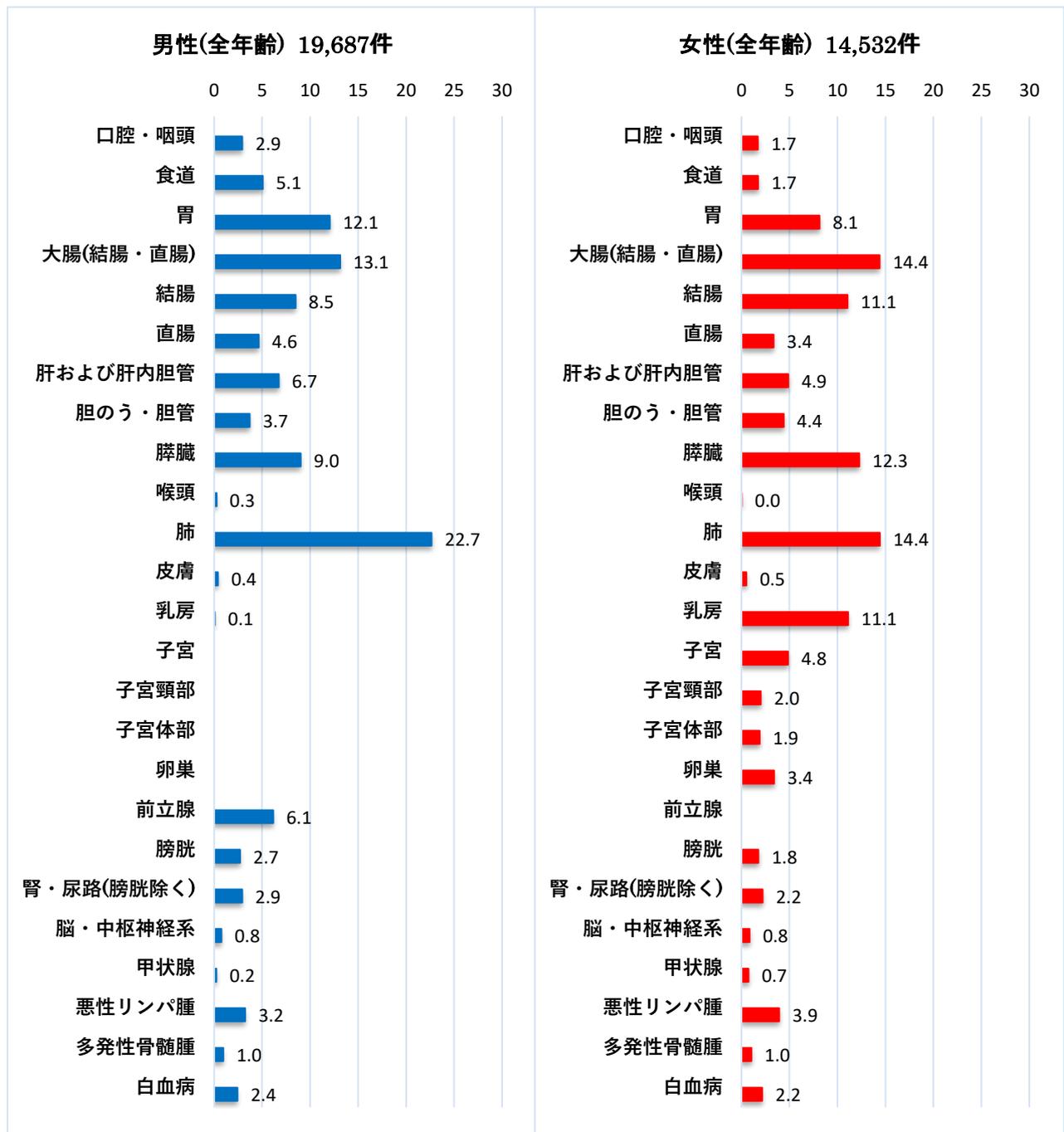
#### 4. がん死亡の概要

##### (1) 部位別・性別がん死亡数（表3-9）

東京都において、2020年にがんによって死亡した者の数は、男性19,687名、女性14,532名、男女計34,219名である。

がん死亡数を部位別に見た場合、男性は、肺、大腸、胃、膵臓、肝および肝内胆管の順に多く、女性は、大腸、肺、膵臓、乳房、胃の順に多い（図2-12）。

図2-12 2020年部位別・性別がん死亡件数・割合（％）

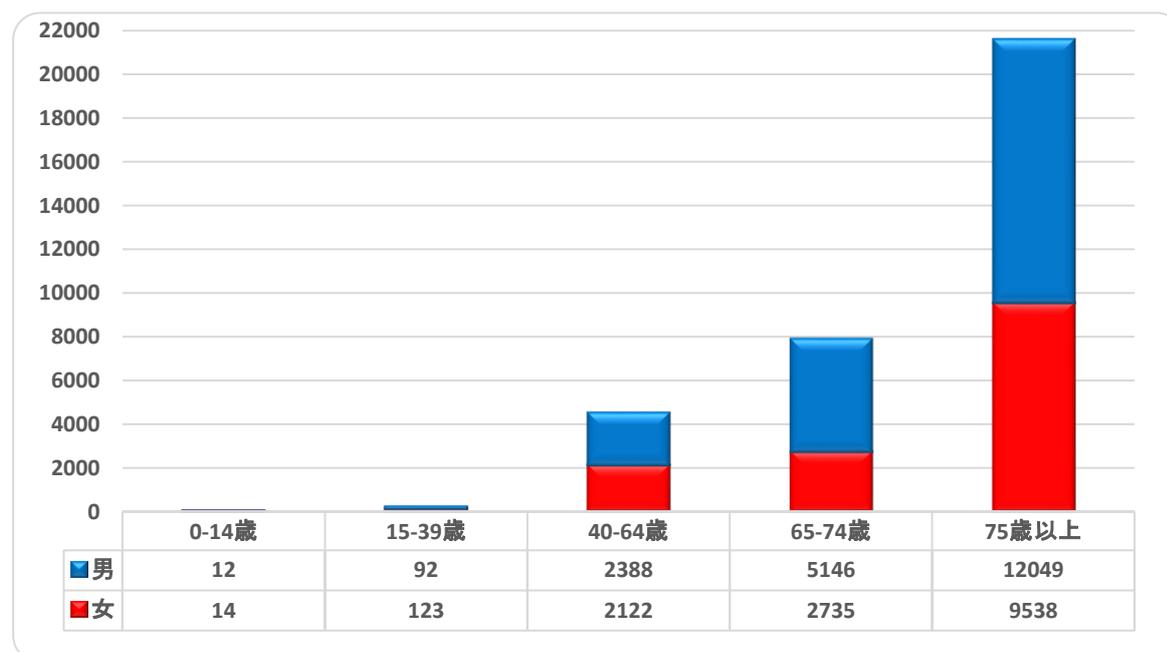
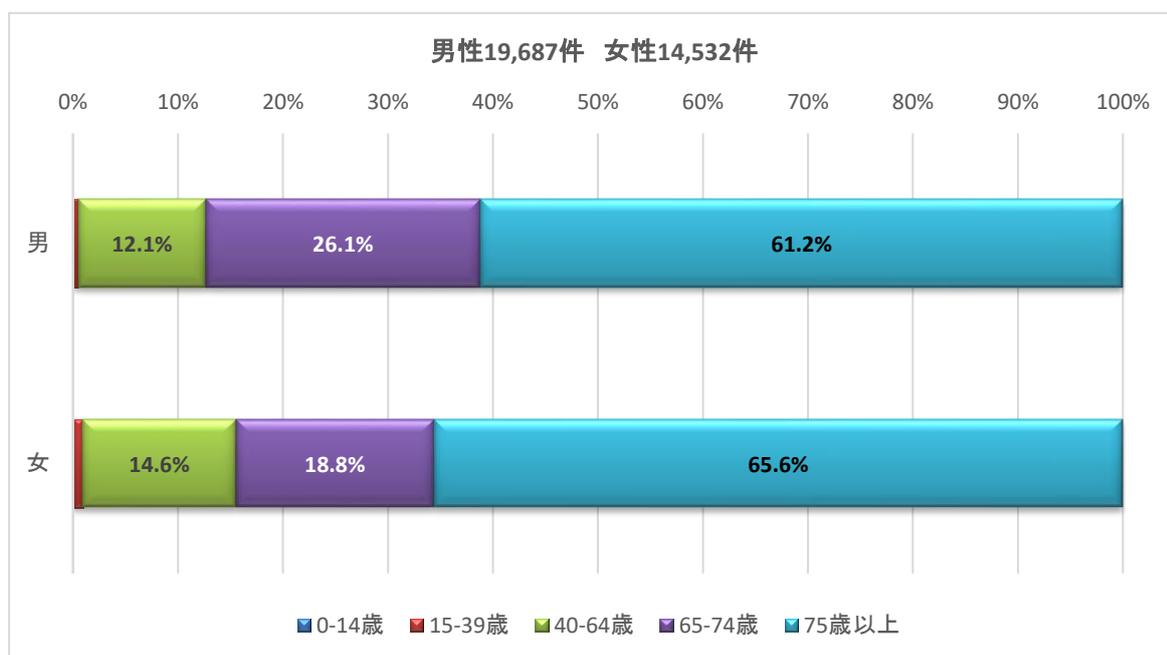


## (2) 年齢別がん死亡（表3-10/11）

2020年がん死亡の年齢別内訳を見ると、65歳以上での死亡が男性87.3%、女性84.5%と、ともに8割以上を占めている。一方、40～64歳は、男性12.1%、女性14.6%である。死亡者数は、男性19,687名、女性14,532名で男性の方が5155名多い（図2-13）。

年齢階級別死亡率（図2-14）を見ると、男女とも年齢の上昇とともに増加するが、50歳を過ぎる頃から更に上昇する傾向にある。

図2-13 2020年がん死亡年齢群別内訳



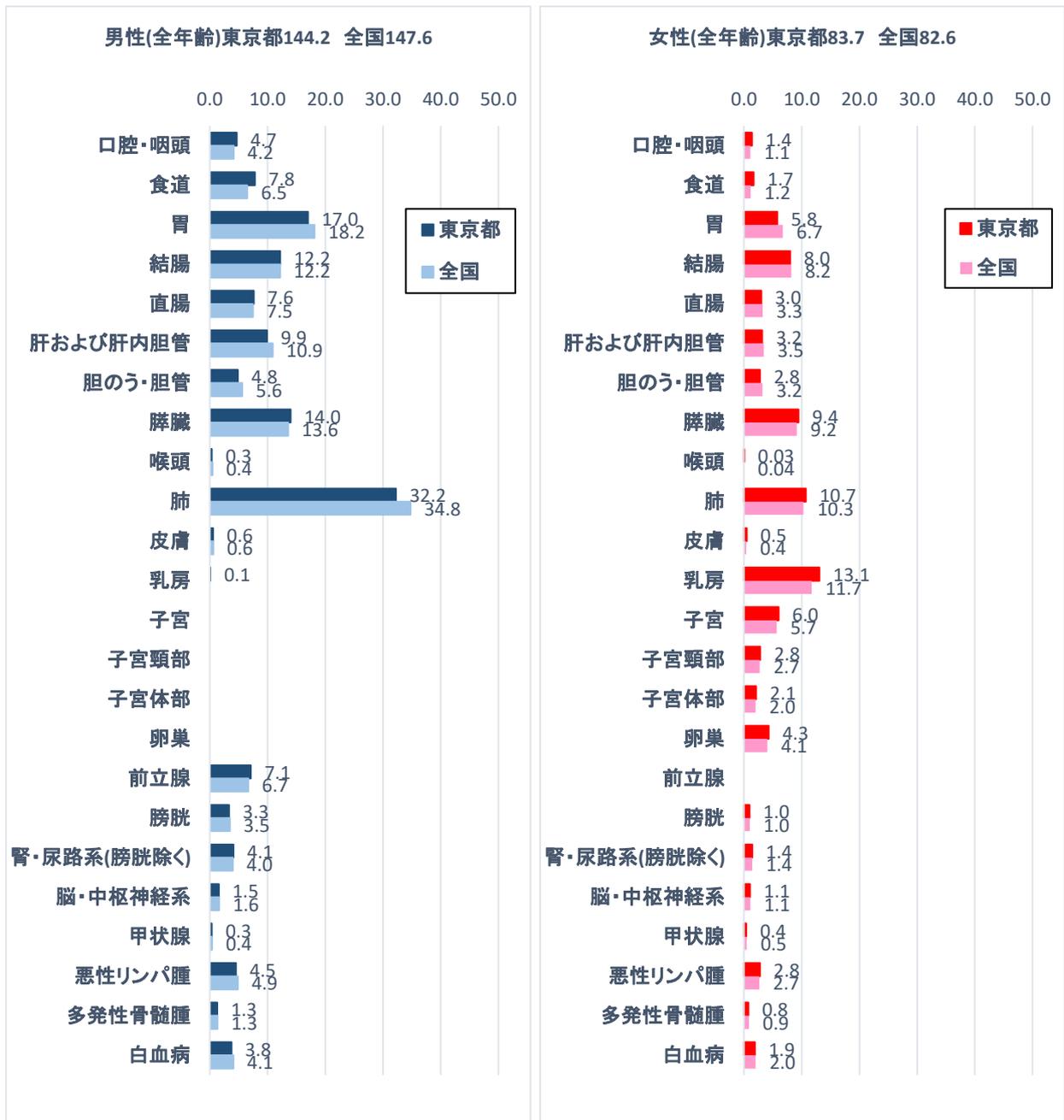




### (3) 年齢調整死亡率（表3-9）

東京都のがん罹患者に関する年齢調整死亡率は、人口10万人当たり、男性144.2、女性83.7である。全国推計値は、男性147.6、女性82.6である。部位別では、男女ともに全国と比して概ね同様の傾向を示している。（図2-15）。

図2-15 2020年部位別年齢調整死亡率：人口10万対（全国推計値との比較）



5.区市町村別標準化罹患比(付表3-6)

全部位及び胃、大腸、肺、肝および肝内胆管、乳房、前立腺について、区市町村別標準化罹患比(上皮内がんを除く)を統計地図として示す。人口の少ない地域や頻度の低い部位については、わずかな件数の違いで大きく変動することがある。そのため主要ながんに絞り、また島嶼部を除いた。

図2-16-1 2020年 全部位 標準化罹患比(上皮内がんを除く)

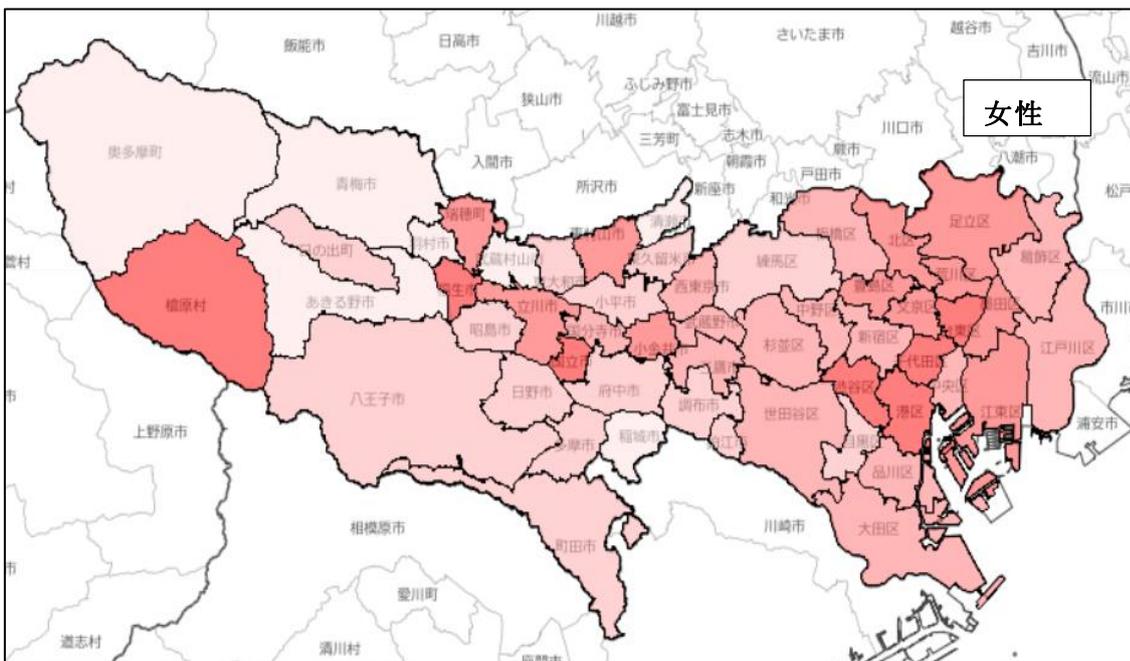
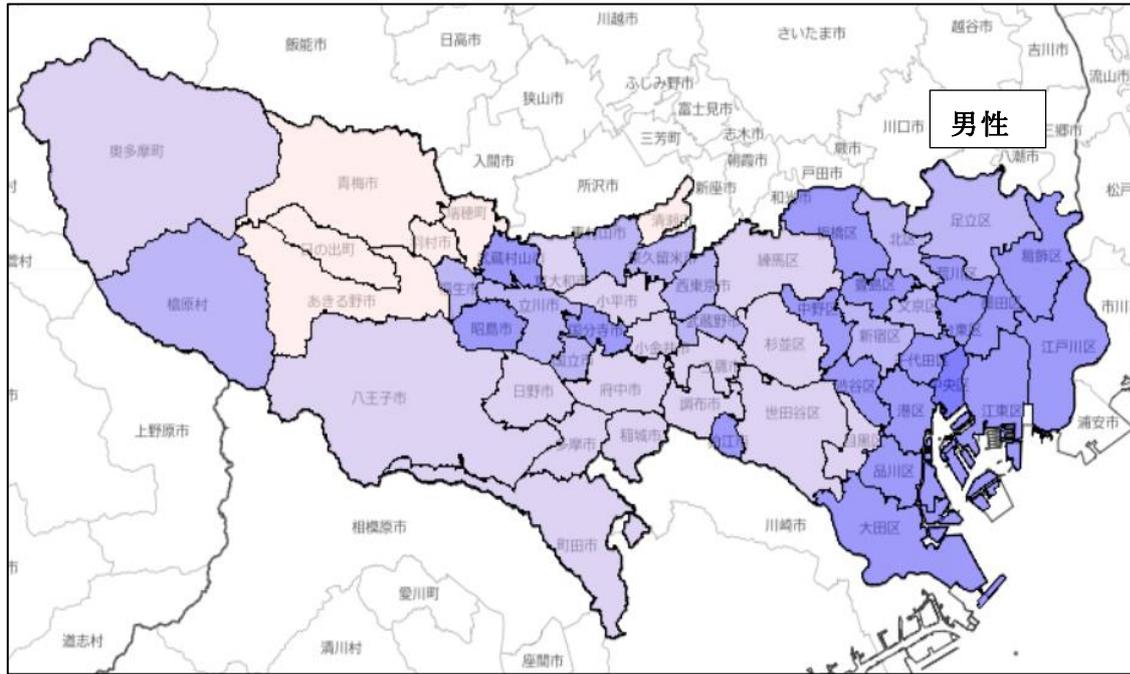




図 2-16-3 2020 年 大腸 標準化罹患比(上皮内がんを除く)

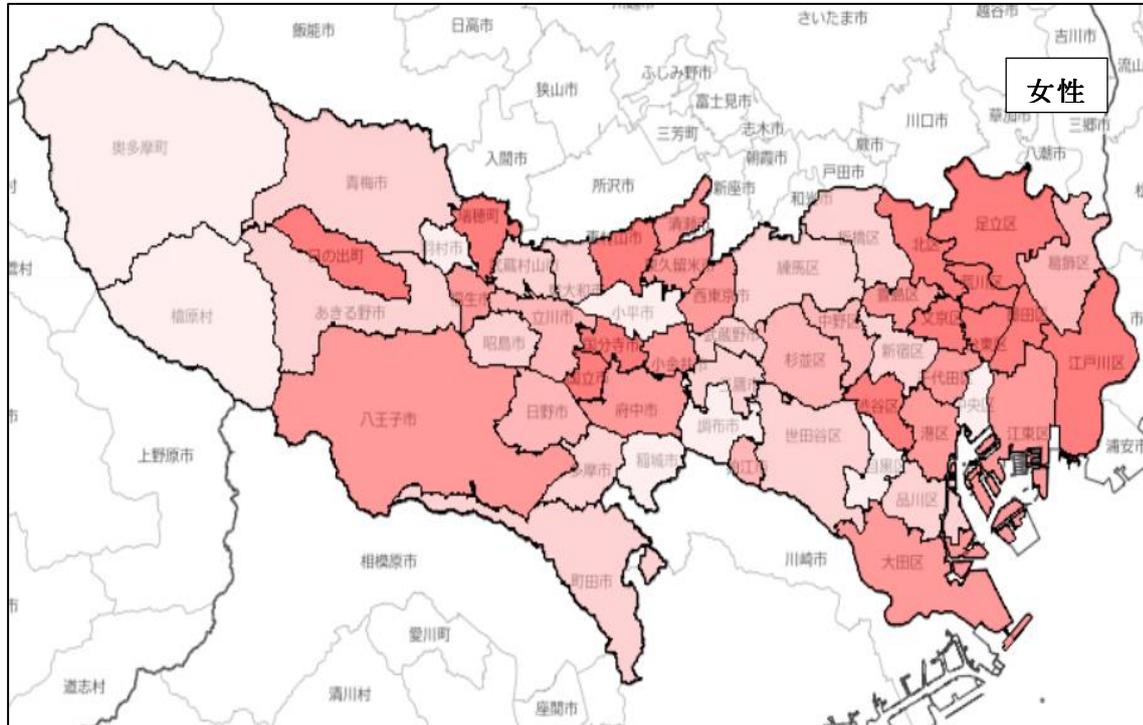
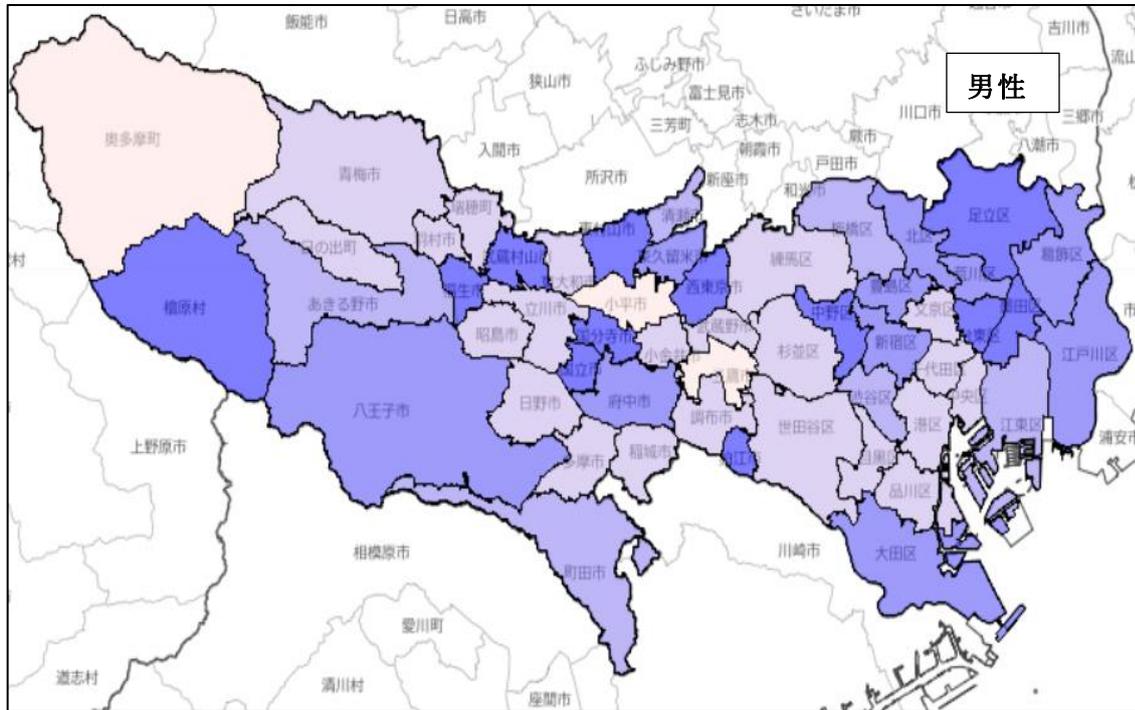


図 2-16-3 2020 年 肺 標準化罹患比(上皮内がんを除く)

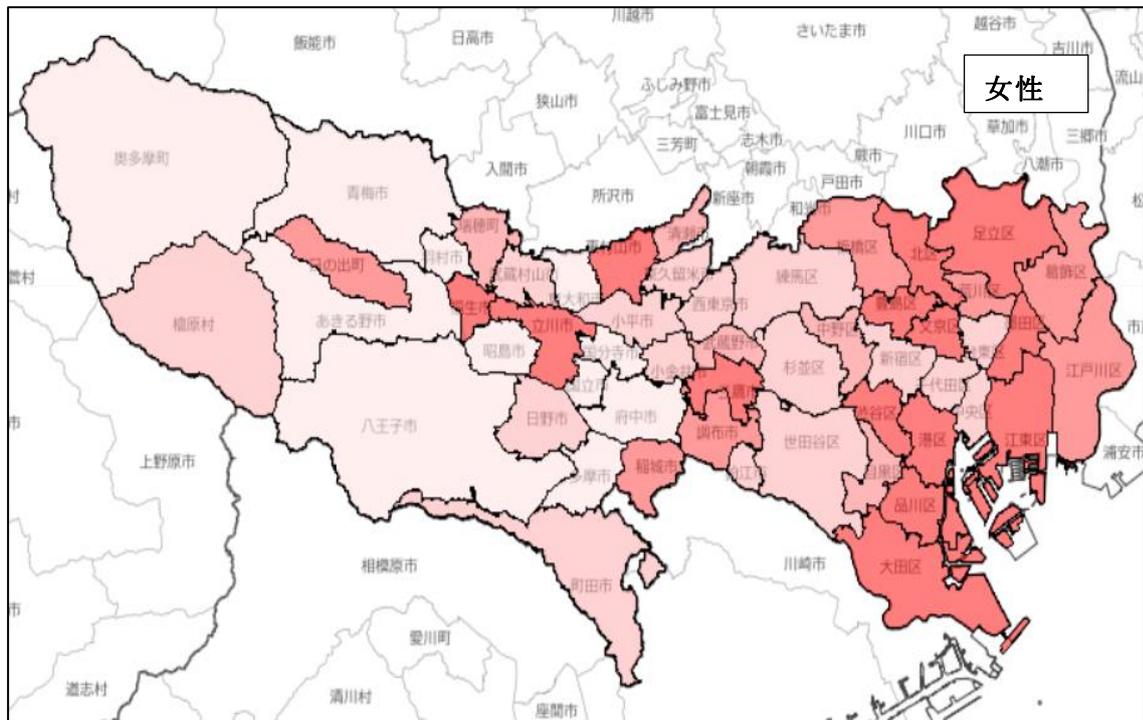
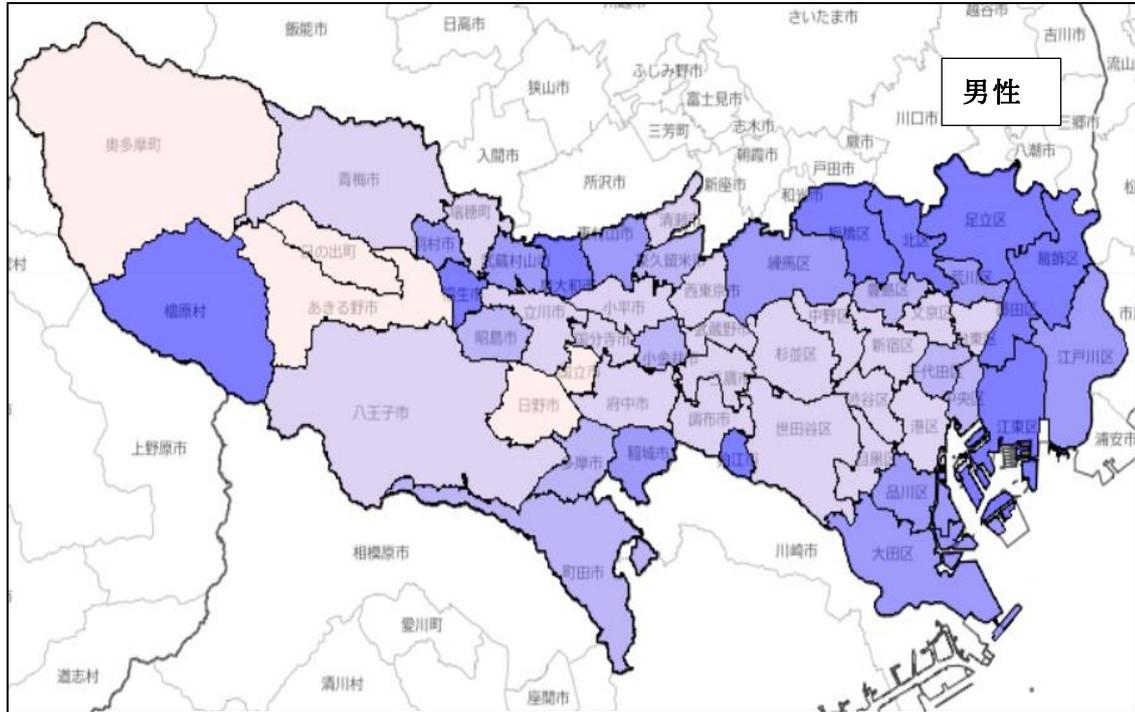


図 2-16-4 2020 年 肝内および肝内胆管 標準化罹患比(上皮内がんを除く)

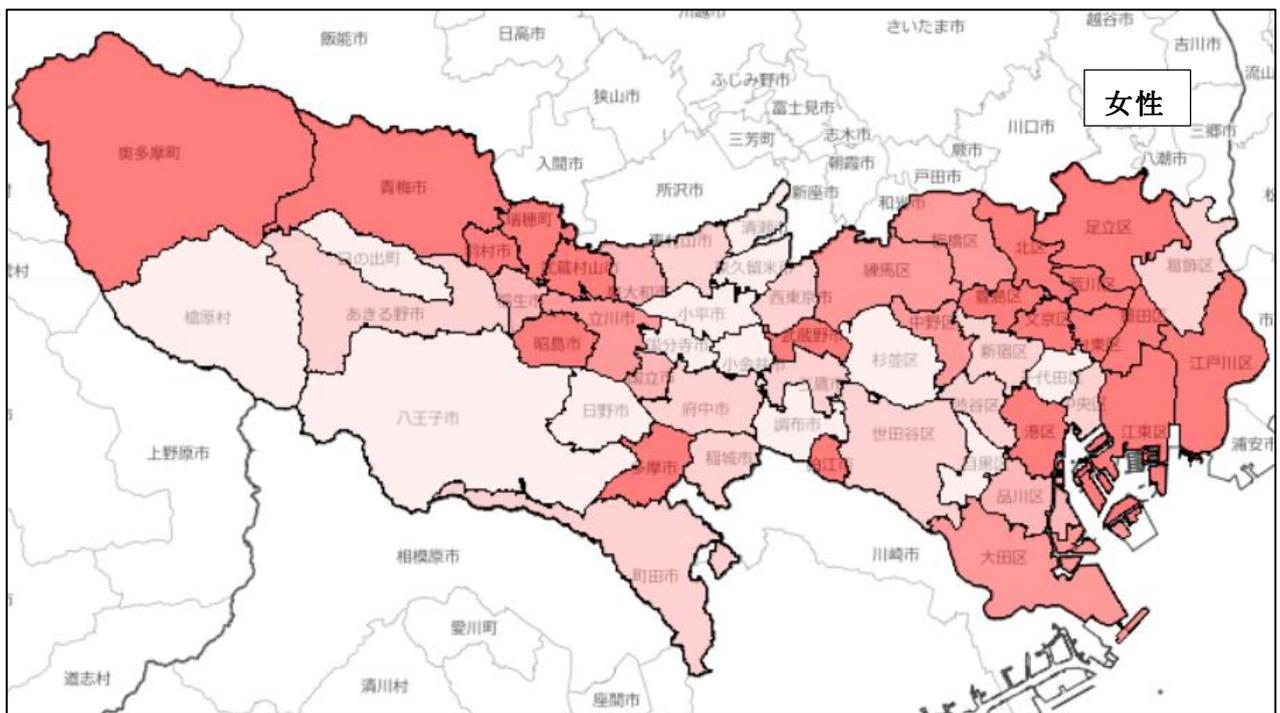
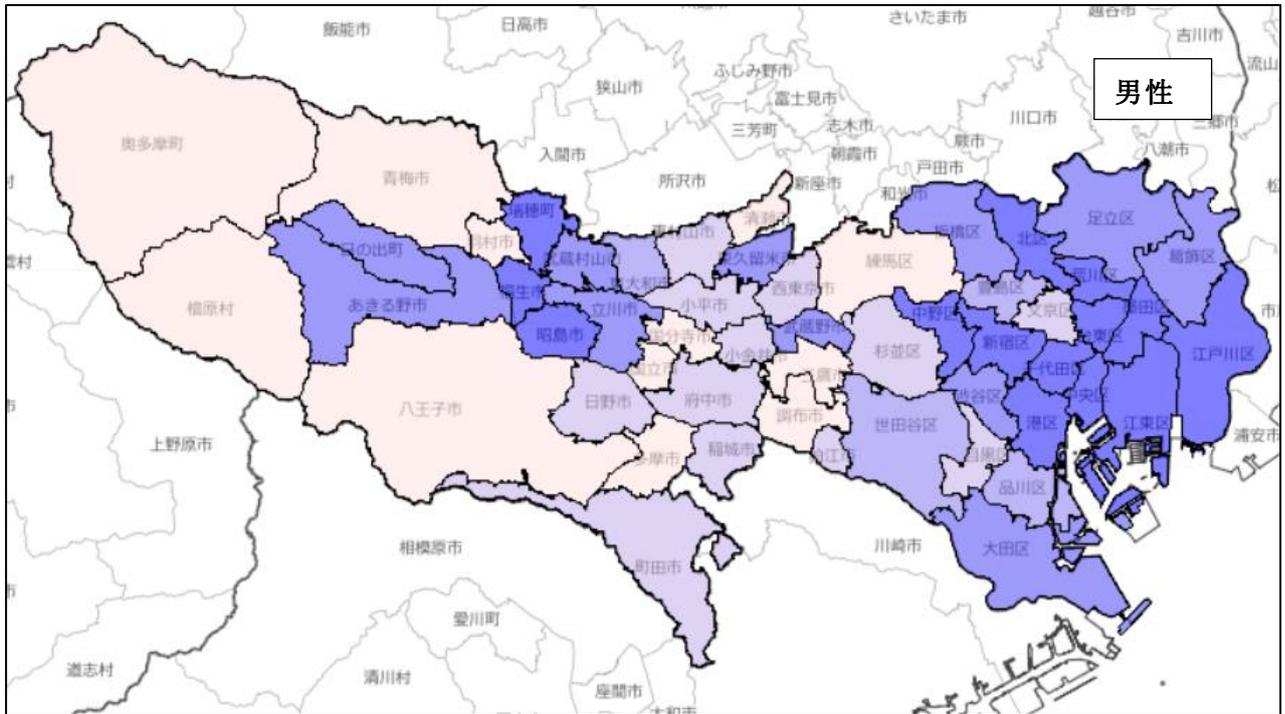


図 2-16-5 2020 年 乳房 標準化罹患比(上皮内がんを除く)

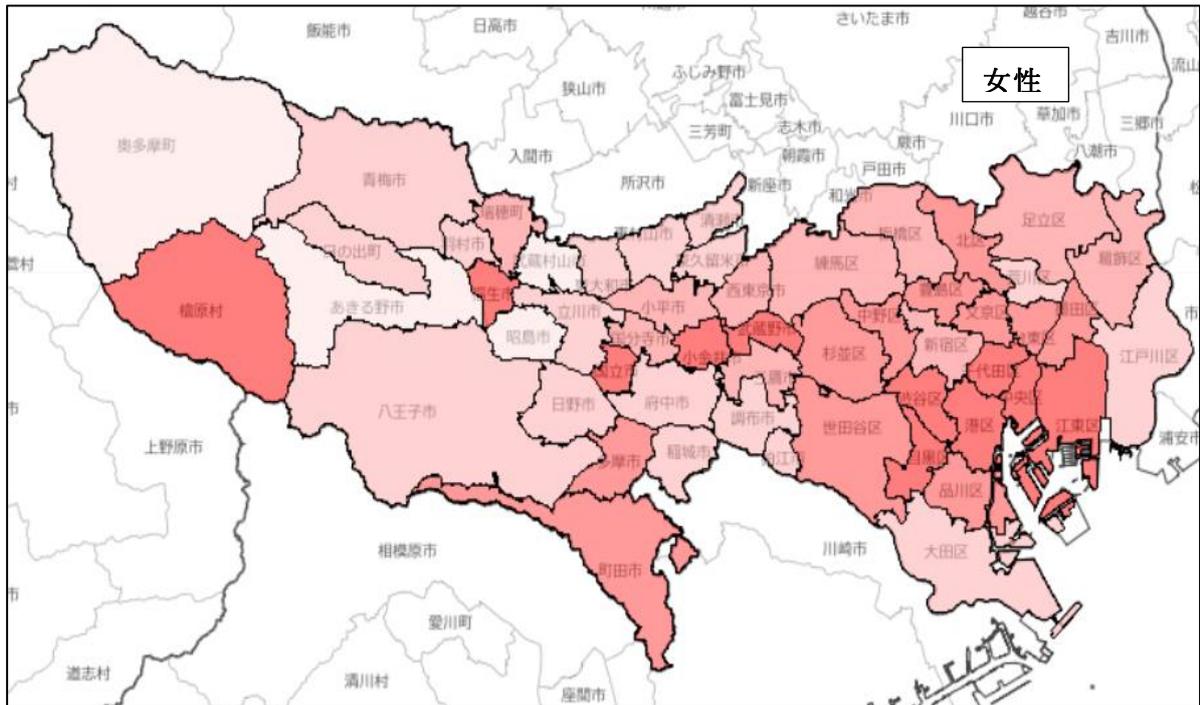


図 2-16-6 2020 年 前立腺 標準化罹患比(上皮内がんを除く)

